

しおがまいし

## 塩竈石

(生路)

むかし、生路の浜をはじめとした塩を焼く海岸に、「塩竈石」と呼ぶ石がたくさんありました。

この石は、竈の底に敷いておき、その上で火をたいて、塩を焼いたときに使われたものです。それで、この石は、みんな黒い色をしておりました。そして、長い間使っているうちに、この塩竈石には、塩がくつつき、それが、病気を治すのに大変効果があったということです。

「おつかあ、なんだか腹がしくしくやめるがや。」と子供が泣きべそをかいてきました。

「ああ、痛い痛い。腰が痛うてたまらんわい。」と田んぼから帰ってきたおつとうが、腰をたたきたたき言いました。

そんなとき、おつかあは、海岸へ走って行って、塩竈石を拾ってきました。そして、火であぶって温めると、それを痛いところに当ててやりました。すると、どんなに激しい痛みでも、けろつと治ってしまったということです。

それで、生路の塩竈石は、「温石」よりきき



めがあるということで、たいへん ひょうばん大変な評判になったと  
いうことです。